

アメリカンクラフトセミナー

去る2月19日(火)早

朝に、私たちは伊丹空港から米国シアトルへと向かいました。シアトルはスタジオグラスのメッカとも言える地であり、新しい芸術運動を生み出すエネルギーが感じられる町です。今回のアメリカンクラフトセミナーは、このシアトルでの研修と姉妹校であるカリフォルニア美術大学の合同授業からなる海外研修。



参加学生は工芸学科1年生から3年生までの17名で工芸学科長伊藤隆先生と筆者の2名が引率して、総勢19名の一行となりました。

まず、シアトルでは当代を代表する作家たち、デイルチフリ氏、ダンテマリオニ氏、ヤニューシユ氏、ボイドスキキ夫妻のガラス工房を訪問。ボーイング航空博物館、メタルアートセンター、タコマグラス美術館等々を見学のほか、ワシントン州立大学ではマーク教授が特別にレクチャーまでして下さいました。シアトルでの訪問先は旧知の仲間

の工房や、彼らの紹介で訪れることが可能となった研修先でしたが、行く先々でこちらが戸惑うほどのもてなしを受け、『大阪芸術大

の学生たちのために』との彼らの言葉に胸が熱くなる旅となりました。移って、サンフランシスコではまず2日間の自主研修。既にアメリカに慣れた学生たちは、現地で自転車借りてギヤラリー巡りをする学生や地下鉄や路面電車を乗りこなして町を探索する学生等々、各自の視線で積極的に行動をする彼らを非常に頼もしく感じました。学生たちが自主研修を行っている間、私たち教員はカリフォルニア美術大学にて現地の教員や職員の方々と合同授業や交換留学について等、貴重な意見交換を行いました。

隔年開催される『スペイン国際セミナー』今回は、平成25年2月19日(火)から3月4日(月)の日程で、デザイン学科・建築学科・環境デザイン学科・工芸学科・文学学科・キャラクター造形学科の学生24名が参加しました。

スペイン国際セミナー

～天空の工事現場視察～

今回の合同授業の課題は『夢を描く』と題したタンブラーへの絵画表現と吹きガラスによる共同制作。箸の文化で育った学生とナ

工芸学科 准教授 内村由紀

今回の合同授業の課題は『夢を描く』と題したタンブラーへの絵画表現と吹きガラスによる共同制作。箸の文化で育った学生とナ

2月20日(水)～22日(金)の研修は、カタルニア工科大学、王立ガウディ研究所のサンマルティ・ヴェルダゲ教授らによる1900年前後にバルセロナで開花したモデルニスモ建築20世紀前半の都市計画、ガウディの生涯とその作品について、

イフとフォークで育った学生が同じ課題に取り組み、一緒に汗を流した3日間の合同授業は非常にエキサイティングなものでした。また、一台の大型バスに乗り込み、全員で出掛けた学外授業では、広敷地に10名もの現代アーティストがシェアするDome工房と、特異な制作方法で建築界に巨大なガラスを提案するジョンルーイスの工房、そしてオークランド美術館を見学。造形家のなまの制作現場を目の当たりにして、日米の学生ともに大きな刺激を受けたようでした。パミーナ教授、エリン講師、グイドー講師、ビル工房マネージャーには並々ならないご尽力を頂き、想像以上の素晴らしい合同授業となりました。仕上がった作品とともに経験と感動と思いを残して3月2日(土)無事に帰国致しました。

素材と構造、環境などの側面から解りやすく説いていただいた後、グエル別邸、聖ポール病院、グエル公園、バトリヨ邸、ミラ邸、コロニアルグエル、グエル教会、そして建設途上のサグラダファミリア教会の工事現場を視察しました。



サグラダファミリア教会の工事現場写真資料

宮殿とヘネラーイフェ離宮を訪れ、実地解説を受けながら見学しました。その後、研修で訪れた都市(施設)は、マラガ(アルカサバ、ピカソの家)、セビリア(セビリアアルカサル、セビリア大聖堂)、コルドバ(メスキータ・ビアナ宮)、マドリッド(プラド美術館)等でした。今回のセミナーでは、6学科の異なる分野の学生が互いに知的刺激を得ることにになり、今後の創作活動に大いに役立つ有意義な体験を重ねました。

ね3月4日(月)無事帰国しました。

(大阪芸術大学 工芸学科 教授 宮本知)

グアム研修

平成25年3月4日(月)から7日(木)まで3泊4日の期間で研修を行いました。今回の研修には、大阪芸術大学短期大学部保育学科と大阪芸術大学初等芸術教育学科の計8名の学生が参加しました。関西空港に朝の8時に集合し、結団式を行い10時に空港を離陸、現地時間14時30分頃にグアムに到着しました。出発時はとても寒かったですが、グアムは日本の真夏のように学生は驚いていました。



2日目、研修施設のマーシーハイツ・ナーサリーは今回で5回目の訪問です。教頭先生にあたたかく迎えて頂いた後、学生は3グループに分かれて2～3歳児のクラスを見学しました。子どもを見ると、緊張していた学生の表情がこやかに瞳が輝きました。この日は、2～3歳の子どもたちが歌にあわせた身体表現をしているのを見て頂いた後、今度は、学生が用意していた身体表現を子どもたちの前で披露しました。子どもたちは興味深く見ていて、一緒に身体表現をしました。昼食をはさんで、午後はグアムの歴史や文化も学ぶため、アプガン岩、ラッテストーン公園、スペイン広場、恋人岬を見学しました。

3日目は4～5歳児のクラスを見学。学生たちは前日とは別の身体表現をしました。その中のエビカニクスという身体表現は子どもたちに大変好評でした。最後に質問コーナーがあり、活発に質問していました。研修施設を去る時、学生はとても名残惜しそうでした。

学生たちは研修の充実感で溢れていました。そしてこの研修で得たものは、これからの保育の勉学にきっと役立つと思います。

(大阪芸術大学短期大学部 保育学科 教授 門谷行宏)